

今号の読みどころ

議員団レポート…(茨城県議会、日立市議会、ひたちなか市議会、沼津市議会、さいたま市議会) P2~3
幹事長の主張…次世代に向けてやるべきこと
浅野衆議院議員・国政レポート…国内・海外とも政治から目が離せない一年に

浅野さとし衆議院議員・国政レポート



日立グループ議員団会長
衆議院議員 浅野 さとし

昨年は統一地方選挙やひたちなか市議会議員選挙など、日立グループ議員団の仲間が多くが選挙に臨み、全員が当選を果たせた充実の一年でした。当選された議員の皆様をはじめ、支援組織の皆様もきつと清々しいお正月を迎えられたことと思います。本年もどうぞよろしくお願いたします。

国際政治は激動の一年に

本年は1月の台湾総統選挙、3月のロシア大統領選挙、9月の自民党総裁選挙、11月のアメリカ大統領選挙など国際政治に大きな影響を及ぼす選挙が多数予定されており、それぞれの選挙には大注目の一年になります。私は特に、台湾総統選挙とアメリカ大統領選挙に注目しています。近年の日本社会は、急激な物価高や資源類の安定的調達に関する課題をかかえています。その主な原因はウクライナ戦争などの国際紛争と、米中の経済覇権争いに起因する国際経済圏のブロック化です。台湾総統選挙では次の総統が中国との距離感をどの様に示すのか、アメリカ大統領選挙では、次の大統領がロシアや中国との関係性をどの様に構想するのかによって、日本の産業界にも多大な影響を及ぼす可能性があります。今年の国際政治の動きには、是非ご注目いただきたいと思っています。

「セキュリティクリアランス制度」に注目

一方、国内に目を向けると、今年の通常国会の注目ポイントのひとつは、経済安全保障につながる重要技術に関わる人々を対象とした「セキュリティクリアランス制度」の創設に向けた議論になります。セキュリティクリアランス制度とは、企業等の従業員が機密情報や重要な情報にアクセスできる権限を持つかどうかを審査する制度です。人工知能やバイオ、ロボティクス技術など日立グループの中にも関わる人の多い先端技術分野では、この資格をもつことで技術先進国との技術交流の活性化や共同研究・開発機会の獲得、新たな海外案件の獲得などが期待されています。私たちが働く電機産業界にとっても、新しい競争力の源泉を育成しやすい環境づくりにつながるため、今年の国会では積極的に議論を重ねていきます。

本年も日立グループ議員団会長として緊張感をもって活動に邁進します。今年一年間も皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

国内・海外とも 政治から目が離せない一年に

市政だより

若者から意見を伺うオープン予算委員会を初開催



三神 尊志
さいたま市議会議員
(日立労組本社支部)

オープンカフェラシ



意見を届ける 機会が少ない 若者を対象として 議会の広聴機能を高める

12月17日(日)大宮区役所大会議室にて、さいたま市議会予算委員会のオープン委員会を開催しました。3名の若者から「若者が住み続けたいと思う魅力あるまちとするためには」をテーマに政策提案をいただき、予算委員との意見交換を行いました。

この取組みは、特に市議会に意見を届ける機会が少ない若者を対象として議会の広聴機能を高めるべく、予算委員長である三神が主導し実現したもので、市議会に提案したい政策を持つ概ね25歳までの市内在住・在勤の若者を公募し審査した上で、3名の若者にご出席いただきました。公募市民に委員会で発言していただくことは、さいたま市議会として初の試みです。

若者たちからは「SNSで魅せる活動を」、「さいたま市名物を作って全国にアピールする」、「すべての年代が利用できる施設をつくる」、「夢を叶えられるまちに」といった提案があり、それを受けた予算委員と活発な意見交換が交わされました。

今回いただいた提案や意見は、市議会2月定例会での次年度当初予算審査に予算委員会として反映していく予定です。

幹事長の主張

次世代に向けてやるべきこと

働く者が報われる社会の実現に向けて

日頃から日立グループ議員団の各種活動へのご理解と各議員に対するご支援に感謝を申し上げます。

市民生活に大きな影響を与えた新型コロナウイルス感染症も昨年5月に感染症法における分類が五類となり、マスクの着用や行動制限が解消され自由な活動ができるようになりました。以前のような活気ある市民生活が戻ってきた一方で、これまで苦労して取組んできた感染拡大対策や経済支援対策が薄れつつあります。

私たちは新型コロナウイルス感染症に何を

学び、次なるパンデミックにどう備えていくのかを真剣に考えることが重要だと思います。

日立グループ議員団は、まじめに働く者が報われる社会の実現に向けて、これまでの対応をしっかりと検証して、次の世代につながる自治体活動につなげていきたいと考えています。

連携強化が不可欠

昨年7月の総会以降、グループ議員団の多くの仲間が自治体選挙に挑戦し、候補者全員が当選の栄を勝ち取ることができました。当選に至るまでの取組みに対し感謝を申しあげるとともに、今まで以上の連携強化にご支援をお願い



日立グループ議員団幹事長
澤田 秀夫
安来市議会(プロテリアル労組/安来支部)

いたします。

一方で昨年末から囁かれていた衆議院の解散総選挙は、余談を許さない状況が続いています。浅野さとし衆議院議員は、日立グループ議員団会議の会長として「政治の日常化」の取組みを今まで以上に進化させ、議員団の仲間と連携を図りながら活動を展開中であります。

国と地方が一体感ある取組みを進めていく所存でありますので、皆様方の絶大なご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

2023年10月 茨城県ひたちなか市議会

当選御礼



三瓶 武
ひたちなか市議会議員
(日立労組水戸支部)

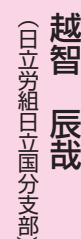


北原 祐二
ひたちなか市議会議員
(日立Astemo労組佐和支部)



鎌田 政人
ひたちなか市議会議員
(日立ハイテク労組那珂支部)

2024年1月 東海村議会選挙候補予定者



越智 辰哉
(日立労組日立国分支部)
ご支援をお願いします

県政だより

「茨城デスティネーションキャンペーン」を実施



齋藤 英彰
茨城県議会
(日立労組/大みか支部)



ウミウ捕獲地における特別見学

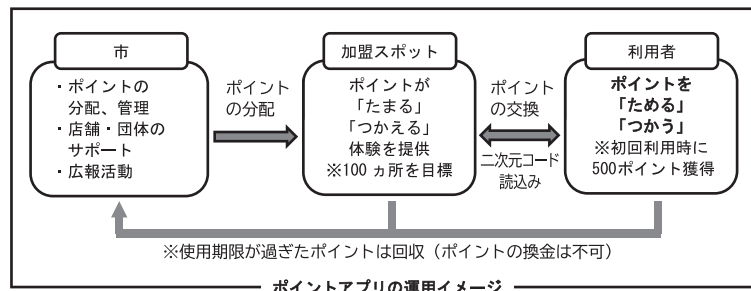
茨城の魅力
再発見につながる
多彩な取組みを
実現

茨城県では、JRグループと地域が一体となっていく国内最大規模の観光キャンペーン「茨城デスティネーションキャンペーン」を、令和5年10月～12月にかけて実施しました。「体験王国いばらき」のキャッチコピーのもと、県内各地で合計300を超える企画が用意され、例えば日立市では、日本唯一のウミウ捕獲地において捕獲伝統技術者から案内を受けられる特別見学を実施したり、常陸太田市では、日本最大級の長さを誇る竜神大吊橋において100mの高さから暗闇の中に飛び込む「竜神ナイトバンジー」を開催したりするなど、魅力的

なコンテンツが多くの観光客を楽しませました。なお、御覧になられた方も多いかと思いますが、キャンペーンの実施に合わせ、国民的アニメ番組「サザエさん」のオープニング映像には、茨城の様々な観光スポットが登場しています（令和6年3月まで継続）。今回のキャンペーンで盛り上がった茨城観光の勢いを一過性のものとすることなく、茨城県にとって最重要課題の一つである県北振興にもしっかりとつなげていくため、引続き全力で取り組んでまいります。

【茨城県内初】コミュニティ活動へのポイントアプリ導入

市政だより



導入を検討している「まちのコイン」のイメージ動画



助川 悟
日立市議会議員
(日立労組日立国分支部)

「お金で買えないうれしい体験」でつながりを増やす

日立市では、10年先、20年先も持続可能なコミュニティをめざし、令和4年1月に策定した「日立市コミュニティ活動推進行動計画」の重点事項の一つとして、コミュニティ活動への参加のきっかけをつくるため、スマートフォンのポイントアプリを使った「電子地域通貨」の導入に向けた検討を進めてきました。ポイントアプリは、例えば、地域の防災訓練やごみ拾いへの参加、イベントのお手伝いをするなど、コミュニティ活動等に参加するとポイントが貯まり、貯まったポイントを使って、非売品のひたちPRグッズや訳あり野菜がもらえたり、地域店舗の新メニューの試食ができたりするなど、「お金で買えないうれし

い体験」を通じて、人やまちとのつながりを増やしていく仕組みです。このように、ポイントアプリの導入は、コミュニティ活動への参加者を増やすきっかけとなり、活動や地域経済の活性化、関係人口づくり、またSDGsの普及などにもつながる効果が期待できることから、令和6年3月頃の導入に向けて具体的な準備を進めています。民主クラブとしても、コミュニティや関係団体などとの連携、人の役に立つ体験などの検討、市民への広報活動などに努め、持続可能なまちづくりに向けて取り組んでまいります。

「ひたちシーサイドマラソン」初開催へ

市政だより

本市では、毎年4月に50万人以上の観光客が訪れる「日立さくらまつり」と、全国各地から約1万8千人が参加する「日立さくらロードレース」が一体的に開催され、桜とスポーツが同時に楽しめる春最大イベントとして、まちに賑わいをもたらしています。

そのような中、本市では「日立さくらロードレース」のさらなる魅力向上のため、ハーフマラソンなどの5種目に加え、フルマラソン導入に向けた検討が進められてきました。しかし、スタート地点となる会場においては、2万人を越える集客が難しいことなど、「日立さくらまつり」と一体的に開催するうえで課題がありました。

そこで、実施時期などを見直し、本年11月に定員を1万人とする「ひたちシーサイドマラソン」を秋冬最大のスポーツイベントとして開催することが決定しました。コースについては、「ひたちらしさ」の一つである「海」を存分に満喫できるなど、本市の魅力が参加者に伝わるコース設定の検討が進められています。民主クラブでは、フルマラソンの開催を機に、スポーツと観光などが融合したスポーツツーリズムを積極的に推進し、更なる交流人口の拡大とともに地域の活性化に取り組んでいきます。



シーサイドロードを走るランナー



堀江 紀和
日立市議会議員
(日立パワー労組)

「海」を存分に満喫できる秋冬最大のスポーツイベント

市政だより

ひたちなか市のソーシャルメディア



三瓶 武
ひたちなか市議会議員
(日立労組水戸支部)

ひたちなか市の公式LINEアカウント



市民の声が
気軽に行政に届く

ひたちなか市のソーシャルメディアは、LINE公式アカウント、X (Twitter)、Facebookにより情報を発信しています。中でもLINEの機能では、令和5年1月から「市民レポート」機能の運用を開始しました。市民の皆様暮らしの中での“気づき”を、市にいつでも手軽に情報を提供できるツールです。「不具合を伝える」では、これまで、道路や公園の損傷、不具合について市役所への電話や来庁によって情報提供し、市役所が対応してきたものを、「市民レポート」を活用し、LINEからもそれらの情報提供ができるようになりました。当初は、道路、公園、河川、危険な空き家、不法投棄、下水の6項目でしたが、令和5年10月から「通学路の危険箇所」の項目も追加されました。また、「まちづくりの提案、要望を伝える」では、日常で感じたことやちょっと気づいたことなどを気軽に市に伝えることができます。この「市民レポート」24時間365日いつでもどこでも利用できる万能機能です。日新クラブは、市民の声が気軽に行政に届く、環境の整備と充実の推進に取り組んでいきます。

政治の日常化

市政だより

地域の方々とともに地域の課題解決に当たることは重要で「政治の日常化」の手段の一つにもなると考え、議員活動と並行して取り組んでいます。一年前、仲間とともに障害児者の生活の質の向上や働く環境の整備への寄与を目的とするNPO法人を設立。本法人では、国が進めており2025年までを目途に開始予定である「障害を持つ人の希望や能力に合う仕事探しを支援し、関係機関との橋渡しを担うサービス=『就労選択支援』」を見据えた、多様な属性の人たちが障害当事者の希望や特性に応じて就労に関する意見交換をする検討会議や、障害のある児童生徒たちが地域の高校生のサポートを受けながら表現活動をする事業などを実施しています。以前にご案内しました地域独自の昔ばなし「ぬまづ昔ばなし」を再編し、市内の小中学校などに無償配布する取組みも継続中で、計6巻を発刊しています。ウェブサイトで公開していますので、是非ご覧ください。日々の生活の中で、何かしらの課題をお感じになれることもあろうかと思えます。その際は是非身近な議員にお声がけください。



深田 昇
沼津市議会議員
(明電舎労組沼津支部)

地域の方々とともに
課題解決の
取組みを進める